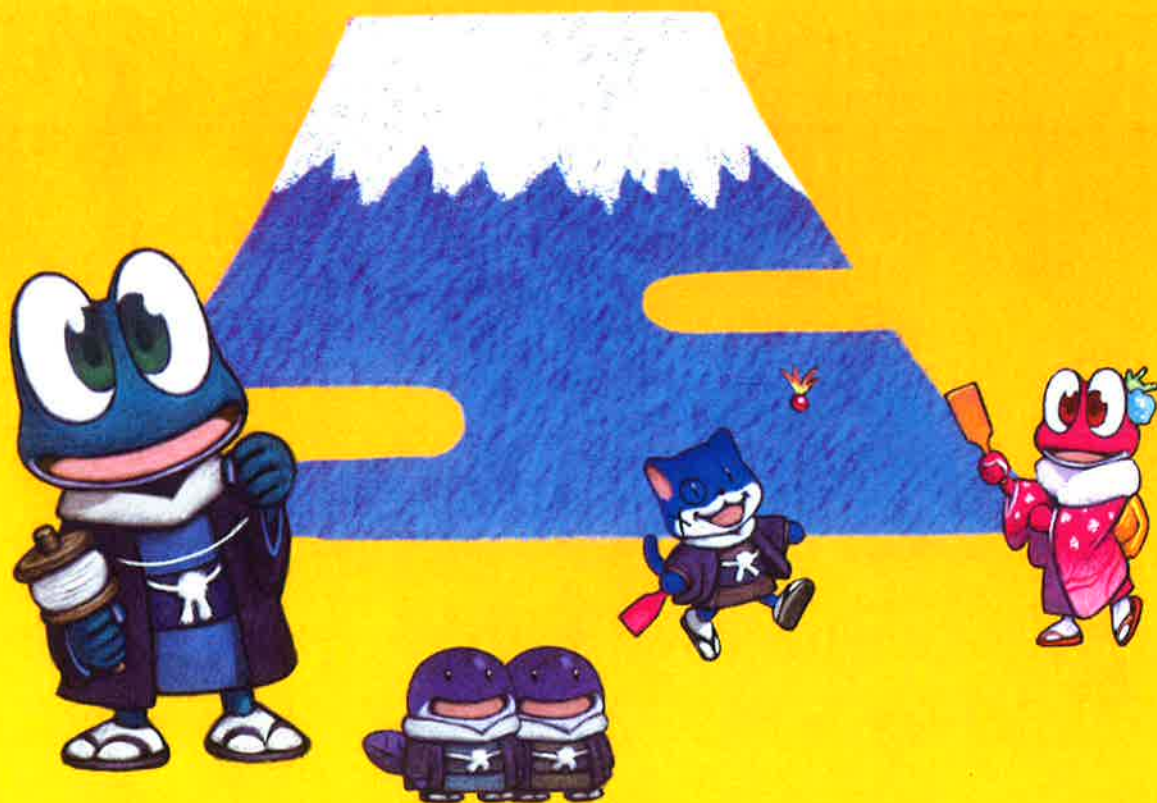


月刊 ケアマネジメント

1月号

特
集

介護保険と 家族の幸せ



特別対談

長尾和宏の

『痛くない死に方』ができる在宅医の選び方



特定

事業所

訪問

を

特定事業所加算を取得している事業所を訪問するこのコーナー。今関心のあること、力を入れていること、ざっくばらんにうかがいます！

社会福祉法人奉優会 等々力の家居宅介護支援事業所 (東京都)

「個」の支援を通して地域へ 拡げたい支援の輪



佐々木克祥さん 居宅事業部長兼事業所責任者（管理者）
主任介護支援専門員、社会福祉士、介護福祉士
相談援助実習指導者

ケアマネジャー 4名（4名常勤）

特定事業所加算IIを取得

右端が佐々木さん。4名全員で毎年、世田谷区民学会で発表する。今年のテーマは「自宅で“自分らしい最期を”ささえるために—やすらぎサロン共同開催」

「わたしの手帳」を使って 地域全体をマネジメント

法人内の居宅事業部には6つの居宅介護支援事業所があり、等々力の家居宅は2001年に開設しました。私は事業部長として全事業所を統括する立場から、新型コロナウイルス対策については事業部内にある衛生・感染症対策委員会と共に『緊急事態宣言後の対応についてのロードマップ』や、『居宅事業部感染症対策マニュアル』を作成しました。また、事業適正化委員会主導で、行政の現地指導さながらの「プレ第三者評価」を行い（年2回）、全事業所の管理者がマンツーマンで職員指導に当たっています。AIについてもケアマネの専門性を見つめ直

すチャンスと捉え9月からAIケアプランシステムプロジェクトを立ち上げ、導入に向けて始動しました。

今、ケアマネジャーにはソーシャルワークの領域で果たすべき役割と、高い資質が求められています。当事業所では利用者を既存の介護サービスにつなげるだけではなく、地域の社会資源とどう結びつけるか、さらには、多職種と連携しながら社会資源の開発も担っていく、いわば地域全体をマネジメントする視点を大切にしています。

この地域全体をマネジメントするための1つのツールとして「わたしの手帳」に力を入れています。私は25年以上高齢者と向き合ってきましたが、納得のいくアセスメント表や、ケアプランに利用者本人の心の内を盛り込むツールが

なくて悩んでいました。6年ほど前、永田久美子さん（認知症介護研究・研修東京センター 副センター長）に「わたしの手帳」（写真）を勧められたことがきっかけとなり、そのとき以来手帳を活用しています。アセスメントシートも共鳴できる仲間と独自のアセスメントシートを開発し利用者の尊厳やアイデンティティの部分を盛り込み、手帳と併用しケアプランに反映させています。

手帳は地域への啓蒙活動の一環として住民に説明して配布したり、また、地域包括支援センター、医師、訪問看護師、デイサービス、サービス提供事業者にも渡して手帳を共有するように働きかけています。

反響は大きく、特に医師には「この手帳のおかげで本人の内心を確認で

わたしの「大切なこと」メモ 記入例

大切にしていること、人にわかってほしいことをメモしましょう。全部書かなくてもOK。一つのメモが貴重です。その時々状況を、書き足していきましょう。

呼び名は (こう呼んでほしい)	田中さん。 わたしの夫は、幸一さん、こうさん。
私の大切な人・存在は	妻や子供たち(清子、浩)、孫たち シロ(犬)、たま(にきうぎのなま) (映画、上野)
私の大切なものは	昔行った旅行の写真、退職の時もらったラジオ。 メガネ、孫がくれたお守り
私のふるさとや なつかしい土地は	生まれたのは、長野県の○○町 若いころ住んでいた山崎がなつかしい。
私の大切な思い出は	苦業を乗り越えて、山へ返して頂いた。 家族で行った九川旅行、子供の頃の空野球
私が行きたいところは	川岸の散歩、○○通りのおみ屋 市民会館、田舎の山が見える○○温泉
私の楽しみ、喜びは	テレビで好きな番組を(録音!) 土いじり、野菜をいかに、妻は作ること 孫が来た時のお守りやお守り
好きな食べ物・飲み物は <嫌い・苦手な物は>	あじの干物、大根の味噌汁 お茶より、コーヒーが好き、しょうちゅう(茶、特に○○) <嫌い・苦手な物は>○○○○○○○○○○
好きな服装・ 色、髪型は	まだはボロシャツはスラックス(ジーンズは嫌) 紺のワンピース(友人の○○)のワンピース 髪は短髪で黒髪が好き。

わたしの「つながり」メモ 記入例

暮らしの中で大事にしたい「つながり先」を、メモしていきましょう。電話番号などもメモしておくとう便利です。

家族・親戚	ご近所の人
田中 幸一 (夫) 00-0000-0000 田中 清子 (娘) 00-0000-0000 田中 浩 (息子) 000-0000-0000 孫 太郎 (孫) 0000-00-0000	田中 幸一 (夫) 0000-00-0000 花田 花子 (友人) 0000-00-0000 0000-00-0000
昔からの友人・知人	今の楽しみ・仲間
田中 幸一 (高松の同級生) 00-0000-0000 上野 浩夫 (昔の住居仲間) 00-0000-0000	花田 花子 (友人) 0000-00-0000 田中 幸一 (友人) 0000-00-0000
行くのが楽しみな店・場所など	日頃、利用したり立ち寄っている場所
市民会館 0000-00-0000 ○○温泉 0000-00-0000 市民会館 0000-00-0000	カフェ 00-0000-0000 花田 花子 00-0000-0000 スーパー 00-0000-0000 出前 料理屋 00-0000-0000 宅急便 00-0000-0000 お守り 00-0000-0000

「今日のわたし」メモ 記入例 2011年 1月 7日

今日の気分は...

4	その日の私の様子や体調、出来事など、 (普通な人が気づいたことも)	通 院 日 記
5		
6		
7	七ヶがゆ (昔から大好き)	安 楽 な 時 間
8		
9		
10		
11	トイレに入ったまま20分(便秘が辛い) (ごたごたした)	
12	シロ、息子とさんぽ(はたけ) たのしみ(お茶は飲まなくていい)	
13		
14	年賀状、会社の頃の同僚からきた (同僚も見ている)	重 要 な 日
15		
16	テレビ(ほろろ「お宝のひらひら」) お守りはお守り (茶いから止めた、機嫌悪い)	
17		
18	なべ、おぎょうまがった しょうちゅう(いつもの晩飯、ごめい!)	
19		
20	ラジオ (聞きながら寝る、昔からの歌)	重 要 な 日
21		
22	わ	
23		
24		
1		
2		
3		

今日、楽しかったこと・嬉しいこと 心配、哀嘆、連絡したいことなど

はたけて太田さんから
お守りもらった。 通じのあんぱいがある。

「わたしの手帳」(永田久美子監修)。手帳を通して本人の希望や困っていることが見えてくると施設内や地域全体のケアの本質を見直すきっかけに。支援の手掛かりにもなる。

き、薬の調整も主治医意見書も書きやすくなった。ケアマネは、生活の中身などの情報を掘り下げて提供してくれるようになった」と喜ばれています。認知症の利用者の家族からも「本人と口論ばかりしていたが、本人の葛藤など思いのままが書かれた内容を見て、からまった紐がほどけていくようだった」と感謝されました。手帳に書かれたことがきっかけとなって、認知症の早期発見につながったこともあります。

やすらぎサロンを通じて 地域全体でターミナルケアを

2年前ごろ、立て続けに終末期のケースを受けた時期があり、その際、「地域の課題」が浮き彫りになりました。医療職とケアマネの間で、ケアマネが終末期の対応に慣れていない面もあって医療の「下請け」の役割を担いがちになってしまったんです。情報の共有もうまくされず……。他にも、終末期の利用者本人が病状を理解して、どのような治療を受けたいのか、どんな最期を迎えたいのかなど、「セルフケアの確

立」が不十分な印象を受けました。これらの課題について職員で話し合い「個別の支援を通じて、地域に目を向けて発信していかなければいけないのでは」と、自宅でその人らしい看取りができる体制作りに取り組み始めました。ちょうど2018年の介護報酬改定でターミナルケアマネジメント加算が創設された時期とも重なり、加算取得のためにも動き始めたんです。渡りに船で、地元の「ふくろうクリニック等々力」の山口院長が、がん当事者の会「やすらぎサロン」を続けていたことを知り、院長と理念や地域医療・介護に関する考え方も共通する部分が多かったことから、「やすらぎサロン」を共同開催することになりました。月1回、本人・家族のほか、医師、看護師、ケアマネなどさまざまな職種が参加して、気軽に相談し合える場となっています。サロンのことを知り、社会福祉法人大三島育徳会も加わってくださいました。ゆくゆくはサロンの拠点を拡げて、自主グループ化していけたらいいなと思っています。サロンの開催を通じて、地域全体でターミナルケアができる仕組

みを整えたいと考えています。

地域へのアプローチ要件を 加算Iに盛り込んでほしい!

サロン開催に当たっては、さまざまな壁に阻まれています。中でも地域のケアマネの協力が得られないことに頭を悩ませています。地元の訪問看護師や、病院勤務の看護師は一生懸命協力してくれるのですが……。報酬の対価が得られないとケアマネは重い腰が上がりません。本当の意味での連携やネットワーク作りはボランティアでは無理があると感じています。

私は特定事業所加算Iの中重度者要件を「地域へのアプローチ要件(社会資源の開発)」に変更すればいいのではないかと考えています。地域によっては中重度者要件を満たさない地域もあります。また、毎月保持していくことは無理が生じています。中重度者要件の壁を取り払い、加算Iの取得を容易にして事業所の経営を安定させれば、個別支援を通じて地域支援の充実も図れるのではないかと。現場からこの点を強く訴えていきたいです。